日 本 女 子 大 学 図 書 館　　2008. 3. 5. No. 131

図　書　館　だ　よ　り

目　　次

ゲーテと図書館 ——西山　力也 1
第七代図書館長　徳末愛子先生を偲んで——出渕　敬子 2
日本女子大学における徳末愛子先生に関する文献 ——田口　令子 3
ＪＷＵ目白図書館訪問記 ——ロッサ・サラ 4
“驚き”と“発見”の大学図書館 ——手塚希世子 5
わたしにとっての図書館という空間 ——小澤むつみ 5
「学生が読みたい本」を実施して 6
3分でご案内！日本女子大学図書館［新入生向］ ——田代　陽子 8

被災前のアンナ・アマーリア公妃図書館

ゲーテと図書館

西山　力也

2007年12月１日アンナ・アマーリア公妃図書館が再開館した。被災後，世界中からの支援でなされた３年余の復旧工事，果してどう修復され，どんな変更がなされたのか。ドイツ古典研究の最重要の図書館，個人的にも愛着があるだけに，早く確かめたくてならない（『図書館だより』No.126）。

ヴァイマルは人口に比して図書館・蔵書数が多いと言われる。啓蒙君主アンナ・アマーリア，嗣子カール・アウグスト以来の一貫した政策の成果。だが，図書館改革・整備の現場で指揮を執ったのはゲーテであった。1797年末アウグスト公から公国図書館総監督を委嘱された彼は，同僚の大臣フォークトと共に改革・整備に着手する。「図書館はその本質からして広く公衆の利用に供されねばならない。」市民に開かれた図書館という信念のもと，翌98年には近代的な図書館利用規則を施行，これを皮切りに司書業務規則の導入，蔵書目録の作成，広報活動の徹底化など矢継ぎ早に施策を講ずる。さらにイェーナ大学図書館の協力のもと系統的な新規購入により蔵書を拡充，当時としては後発であったが読書クラブ設立にも関心を抱き，読書文化の興隆へと導いてゆく。図書購入費は，1781年の600ターラーから1830年には実に20倍の１万２千ターラーに増額，個人蔵書からの寄贈も加わって当初の６万冊が没年の1832年には14万冊，ドイツ最大級の図書館に発展していた。

このようにゲーテは担当大臣として図書館の改革者であったが，同時に熱心な利用者でもあった。アンナ・アマーリア公妃図書館には2276回，イェーナ大学図書館には177回の貸出し記録が残っている。「音も立てずに利子を生み出す巨大資本を目の前にするかの如く」とは図書館の書架に並ぶ本に対するゲーテの信条であった。『詩と真実』が告げるように，彼はフランクフルトの生家で父の見事な蔵書を見て育った。父の死後，母が生家を手放すことになって，1797年父の蔵書から300冊以上を譲り受け，1800年頃からフラウエンプラーンの自宅書庫を整備し始める。当代の主要著作者から新刊を謹呈されたので，購入は自然科学の著作が主，1821年には新規購入リストが，翌22年以降は秘書クロイターにより1千頁にも及ぶ『ゲーテ蔵書目録』が作成された。1832年，死後に遺された蔵書数は古典古代，近代ヨーロッパやオリエントの文学作品と様々な分野の学術書を含む5424タイトル，約6千500冊，多い数では決してない。彼にとって自宅の蔵書は公共図書館の補い，自分の興味と必要だけに限定したのである。換言すれば，ゲーテは収集に淫する愛書狂とは無縁，調査によれば彼の蔵書構築はむしろ，辞典，文法書，弁論術，伝記，造形美術および自然科学書などレファレンスブックを主とし実用性に重点を置いたものであった。　（図書館長・史学科教授）

第七代図書館長　徳末愛子先生を偲んで

出渕　敬子

2007年10月15日に徳末愛子先生が亡くなられたと知ったのは18日，日本女子大学の招きで婦人国際平和自由連盟（WILPF）のジュネーヴにある本部から事務局長スージー・スナイダーさんが講演のため来日し，夕刻からレセプションが開かれる日だった。WILPFの日本支部と国際本部の両方でリーダーとして長らく活躍された先生の訃報はスージーさんの発信で地球をひとめぐりし，先生のご貢献を知る各国の会員たちから，次々に追悼のメイルが寄せられた。

2005年5月17日図書館友の会
第40回総会で挨拶をされる
徳末愛子副会長（右側）

ご病気と伺ってはいたが，このように早く逝ってしまわれるとは思っていなかった。７月にWILPFの会員３人で下馬の瀟洒なケアホームにお見舞いに伺ったときは，少しお痩せになっていらしたがお元気で，きれいな花模様のブラウスをゆったりと羽織られ，辺りに華やいだ空気さえ感じられるお部屋で私たちを迎えてくださった。７月21日からボリヴィアで開かれる３年に１度のWILPFの総会に出席することをお話すると，以前に同じ場所で開かれた総会に出席された時のことを鮮明に覚えていられて，思い出をこまごまと話してくださった。ボリヴィアがどんな国かさえよく知らなかった私は，大いに助かり，また帰国したらご報告します，とお約束して辞したのだったが，このときが最後のお別れになるとは誰も想像していなかった。

徳末先生は私の知る限りでも，四つのことをなさっていられた。一つは言うまでもなく本学英文学科の教授として教育・研究に邁進されたこと，二つ目は改革期の図書館長として献身的に尽力されたこと，三つ目はご退職後桜楓会理事長として，また桜楓学園の教室で，母校のために尽くされたこと，そして四つ目は婦人国際平和自由連盟の本部および日本支部において，国際的な平和と人権を護る運動のリーダーとして物心両面から貢献されたことである。先生の多岐にわたるご業績すべてに言及することは到底できないので，ここでは図書館長としての在りし日をお偲びしたい。

先生が図書館長に就任されたのは1988年４月で，1990年３月まで２年間つとめられた。と言うと短いと思われるかもしれないが，実はこの２年間は日本女子大学の組織改革が計画され，西生田に人間社会学部を設置する準備が着々と進められ，それに連動して西生田図書館の開設準備をしなくてはならない時期にあたっていた。さらに新学部への図書の移転や購入と平行して，時代の趨勢に合わせた図書館の機械化が急務となり，本学でもコンピューターによるJWULISシステムを導入して，機械貸し出しも始まった。この時期の図書館では通常の年の少なくとも３倍以上の仕事をこなさなければならなかっただろうと思われる。徳末館長以下，スタッフの大変さは想像するに余りある。そのような状況の中で先生が毅然として図書館の将来を見通され，つねに図書館のあるべき姿を踏まえて方針の選択をされていたことは，先生の「図書館だより」の文章や座談会の発言に明らかである。戦時中に学生時代を過ごされた先生は，「図書を新聞紙に包んでミカン箱に詰めて軽井沢に疎開したという思い出」があると述べていられる。本学の図書館にはほかでは滅多に見られない本があり，「さすが歴史のある図書館ですね」と言われることがあるが，そのようにして本を大切に扱いながら，図書館が育ってきたことを忘れないようにしたい。

先生は図書館に対していろいろな希望をもっていられたが，いちばん望んでいられたのは，開架式を誇る私たちの図書館が学生と教職員に大いに利用されることだった。「図書館は知らないことを理解させてくれるばかりでなく，人類が営々と築き子孫に伝えてくれた壮麗な世界に一人迷う楽しさを味わせてくれる場所」であり，読書の楽しみは，同じ本を読んでもそのときの年齢に応じて，関心のありかが変わってくることにもある。そして退職後の教職員が一回に３冊しか借りられなかったところを，現職と同様に20冊借りられるようになったことも徳末先生のお蔭である。ここにも「足が健康なうちは図書館を利用」できるようにという先生の願いがこめられている。事実先生はご退職後も絶えず図書館に立ち寄られ，A．ホールデンのシェイクスピア論を翻訳され，書物の世界を楽しんでいられた。心からご冥福をお祈りしたい。　　（元英文学科教授　第11代図書館長）

日本女子大学における徳末愛子先生に関する文献

☆文学部英文学科　略歴・研究業績：「日本女子大学英米文学研究」No.25（1990.3）に掲載

☆図書館　経歴：図書館長（1988.4～1990.3），図書館友の会副会長（1980.5～2007.10）

「日本女子大学図書館だより」　■寄稿文献　第三回国連軍縮特別総会によせて　No.72　1988.6　p1 ／就職雑感　No.73　1988.10　p1 ／学園を巣立ち行く若き友へ　No.74　1989.3　p1 ／山に思う　No.75　1989.6　p1 ／JWULIS元年 21世紀への第一歩　No.76　1989.11　p1 ／学年暦のかわり目に際して　No.77　1990.3　p1 ／図書館とわたし　No.100　1997.12　p12 ／**■関係文献**　〈座談会〉図書館，この30年，そして　No.90　1994.6　p3～19

「日本女子大学図書館友の会　会報」　■寄稿文献　図書館今昔　No.54　1986.11　p1～3 ／図書館今昔～会報100号に寄せて～　No.100　2002.3　p3～5

☆桜楓会　経歴：理事(1973～79年度)，理事長(1991～93年度)，桜楓学園講師(1994～2006年度)

「桜楓新報」　■寄稿文献　就任にあたって 九十年の歴史に棹さして明るい未来をのぞむ　No.479　1991.7　p1 ／桜楓会西生田住宅（仮称）地鎮祭行われる ご挨拶　No.482　1991.10　p1 ／告別講演の精神に思う　No.487　1992.3　p2 ／伝統の礎に新しい息吹きを－平成４年度桜楓会方針－　No.490　1992.6　p3 ／二十一世紀に向って更なる飛翔を－平成５年度桜楓会方針－　No.502　1993.7　p3 ／大原恭先生追悼－弔辞－　No.504　1993.10　p1 ／桜楓館増築募金目標三億円を達成！　No.506　1993.12　p1 ／桜楓会設立九十周年事業について No.509　1994.3　p1 ／故大原恭氏（17英）に 六十年近い師弟の交流　No.510　1994.4　p1 ／日本女子大学卒業式祝辞 文化を継承する自覚を－新会員をお迎えして－　No.511　1994.5　p3 ／桜楓会設立90周年記念式典・挨拶 社会が必要とする新しい求めに応じて　No.512　1994.6　p2 ／常に新しい生命のみなぎる港として－平成６年度桜楓会方針－　No.513　1994.7　p3 ／**■関係文献**　母校の素顔⑮ 図書館　No.443　1988.7　p2 ／社団法人桜楓会理事長に徳末愛子氏就任　No.478　1991.6　p1　＊略歴掲載 ／鼎談女性の自立意識　No.485　1992.1　p1～2 ／鼎談日本のこころ　No.496　1993.1　p1～2 ／鼎談クリエイトする人生　No.507　1994.1　p1～2 ／追悼 徳末愛子さんを偲んで（原田汀子）　No.657　2007.12　p2

☆婦人国際平和自由連盟日本支部　経歴：会長（1982～1988年度，1995～1998年度）ほか

「婦人と平和」 ■寄稿文献　婦人国際平和自由連盟日本支部はいま何をなすべきか No.35　1982.7　p1 ／WILPF本部役員会に出席して　No.36　1982.11　p1 ／戦火の憂いなき地球を愛する子や孫たちのために　No.37　1983.3　p1 ／第22回国際総会を迎えるにあたって No.38　1983.6　p1 ／第22回国際総会に出席して（徳末氏WILPF国際本部副会長に）　No.39　1983.11　p1 ／国連婦人の十年に関するエスカップ会議　No.41　1984.5　p1 ／国際本部実行委員会に出席して　No.42　1984.11　p1 ／1990年度国際実行委員会開かる　No.60　1990.10　p1 ／コスタリカ国際実行委員会報告（続）　No.61　1991.3　p1 ／1991年度国際実行委員会報告 ノールウェー　No.63　1991.10　p1 ／1994年度国際実行委員会は日本で　No.69　1993.10　p1 ／よこがお イーディス・バランタインWILPF会長　No.71　1994.7　p2 ／WILPF日本支部との新たな出会い　No.74　1995.7　p1 ／広島デーに際して　No.75　1995.12　p1 ／瀕死の国連に新しい生命を　No.78　1996.12　p1,3 ／広島の心－原爆被災者の心の叫び－　No.80　1997.7　p2 ／1997年度国際実行委員会（IEC）に出席して　No.81　1997.12　p1 ／アジア・太平洋地区の米軍基地と地区防衛　No.88　2000.3　p2 ／WILPF 2000年度国際実行委員会（IEC）参加報告　No.90　2000.12　p3 ／**■関係文献**　新会長に徳末愛子氏－昭和五十七年度総会終わる－　No.35　1982.7　p1 ／徳末前会長 社会教育功労者の表彰を受ける　No.58　1990.3　p1 ／「ジェーン・アダムスの理想を全世界に」 新会長,徳末氏　No.74　1995.7　p1　／会員に栄えある叙勲 竹中,徳末両氏　No.77　1996.7　p1 ／新旧両会長を囲んでWILPFの変化と活動の強みを聞く　No.86　1999.7　p2 ／ピース・キャラバン2001を継続して－WILPF日本支部第75回総会－　No.92　2001.7　p1 ／知と美：実りゆたかな秋～WILPF日本支部前・元会長たちの活躍～　No.99　2003.12　p1

（館員　田口令子）

JWU目白図書館訪問記

ロッサ・サラ

2007年8月　百年館前にて

西山氏の案内で百年館に近づいて行くと，耳を聾する蝉時雨の出迎え，必死な蝉の声と厳しい残暑はなお盛夏であることを告げていた。手入れの行き届いた前庭には人影がなく，百年館の広いロビーもがらんとしている。大学の建物は元気な女子学生達が戻ってきてロビーや廊下や教室が生気に溢れるのを待ち焦がれているといった風情，私は訪問の時期を誤ったことに気づき，どこにもいない女子学生達の賑わいを思い浮かべようと想像を巡らした。さいわい西山氏の示唆で眼前の光景に女子学生達の姿を補うことができた。思えば氏とは1996年ヴァイマルで知りあって以来，実に10年ぶりの再会である。教室，演習室，講義室，LL教室，図書館などを順に見せて頂いた。どこも驚くほど清潔で整理整頓さてれている。私はバルセロナの母校のかき傷だらけの醜い壁，落書きで一杯のトイレのドアや磨り減った階段の記憶が蘇ってきて，ただ見惚れるばかり。ここの学生たちは何と恵まれていることか。日本の若者達，特に女子学生達には公共の施設を大切にするという，ヨーロッパでは疾うに失われてしまった公徳心が今なお健全に息づいているように思われた。

JWU目白図書館―西山館長の監督下にあるこの王国でも，私は同様の印象を持った。重なったり，斜めになったり，乱雑に積み重ねられた本など，ヨーロッパの大学図書館ではむしろ普通の光景なのだが，ここではいっさい見当たらない。完璧なまでに整然と並んだ本は，さながら知の兵士の隊列の観，これは，親切に館内を案内してくださった田口課長以下，全館員の弛まぬ努力の賜物なのであろう。整然としたこの本の隊列をゆっくりと閲兵しながら，私たちはスペイン文学の書架にたどり着いた。成果はごく僅か，それもその筈JWUではスペイン語を教えていないからであろう。

セルバンテスはすぐ見つかったが，同時に私は非常に嬉しい発見をしたのである。『ドン・キホーテ』の隣にコンチャ・エスピナ(Concha Espina，1869-1955)の2冊の本があったのだ。スペインでは忘れ去られた作家であるだけに，JWU目白図書館に自らが崇拝したセルバンテスと自分が並んでいると知ったら，彼女はきっと驚喜したであろう。まさに諺の言う「本には人間同様それぞれの運命がある」なのである。この古い，黄色に変色した2冊の英訳本は，セルバンテスやボルヘスと共に，およそ1940年代JWU図書館に収蔵されるまで，一体どんな冒険の旅をたどったのだろうか。

これらの本とのこの出会いには，ひょっとすると単なる偶然以上の意味があるのではないのか。とりわけコンチャ・エスピナはJWUの精神に，セルバンテスやボルヘスよりもずっと合致していると思われるからである。女性がまだ家庭に閉じ込められていた時代，スペインの田舎に生まれた彼女はたいした学校教育も与えられずに育つ。結婚して子供を産むのに必要な知識さえあればよしとされていた時代であった。しかし，こうした社会的制約を物ともせずに，自らを奮い立たせて貪るように知識を吸収してゆく。処女詩集を用心して偽名で刊行した13歳以降，次々に50冊以上もの小説を書き，1926年，28年，29年と3回ノーベル賞候補者となる。1931年第2共和国の開始と共に女性の社会的地位が根本的に変わったとき，彼女は決然として新しい民主主義の側に立ち，信仰篤いカトリックであるにも拘わらず，離婚や婦人参政権を弁護して闘う。1931年あるインタビューでの彼女の言。「スペイン女性は政治上の能力において少なくとも男性に劣るものではない。」だが，1936年の内戦に続くフランコ独裁政権樹立，折角膨らんだ女性解放の希望も断ち切られる。彼女はしかし死ぬまで女性の能力と自立を信じ続けたのである。コンチャ・エスピナがたとえ忘却の渕に沈んだ作家であるにせよ，JWU図書館に彼女の本が所蔵されていることは光栄以外の何物でもない。創立者成瀬仁蔵氏は，「女子を第一に人として教育する」と言われたように，彼女と同じ考えを持っていたと思われる。この学園に学ぶ学生達には会えなかったが，その代わりに同胞が遠い異国の図書館で私を歓迎してくれたように思われ，喜びもひとしおであった。再度の訪問をと願っている。

（Rosa　Sala，1969年生まれ。スペインの作家，翻訳者，ゲーテ研究家，ドイツ・ミュンスター大学客員教授。2007年8月31日本学来訪。ドイツ語原文から西山が抄訳）

“驚き”と“発見”の大学図書館

手塚　希世子

皆さんが図書館にもつ印象とはどのようなものでしょうか。私は，図書館とは試験前に利用する以外には用のない所だと思っていました。しかし私は史学科の学生なので，どうしても参考文献にあたらなければならず，図書館に足を運ぶ時が早く訪れました。いざ図書館に入り，パソコンで蔵書を検索してみると，ヒットする蔵書の数に驚きました。一つのキーワードが多分野に渡り検索されるので，目当ての蔵書が見つかることはもちろんですが，こんな蔵書もあるのかという発見も多くありました。おかげで検索の度に，興味の範囲が広がり図書館によく通うようになりました。また，検索の際，歴史用語など，検索してもなかなかヒットしないということもしばしばあります。そんな時は毎回図書館の方に伺ってみるのですが，どなたもとても丁寧に教えて下さいますので，皆さんも困った時には図書館の方に手伝っていただくことをお勧めします！

大学図書館にはたくさんの蔵書がありますが，それらは決して全てが堅苦しい学術書ではありません。幅広く検索してくれるパソコンに，時には授業の課題とは関係なく，日常生活で気になったことを検索してみるのも楽しいと思います。きっとたくさんの興味深い本が見つかるはずです。図書館は学ぶために利用するものですが，学ぶとは決して机上の勉強だけではないと思います。皆さんも是非，驚きと発見でいっぱいの大学図書館に通って，学業に役立てると共に，物事の興味の範囲を広げ"学び"に生かしていって下さい。

（史学科・３年次学生）

わたしにとっての図書館という空間

小澤　むつみ

図書館は様々な場所に様々な様式のものがあります。では，日本女子大学の西生田キャンパスにある図書館とは，どのような場所だと思いますか？一言で表すならば，高校や市民図書館などとは異なる本や雑誌が置いてある，落ち着いた雰囲気の図書館となります。当たり前のことだと思う人が多いと思います。しかし，実際中に入ると，想像と同じということはないと思います。

図書館には，各学科に関係のある専門書が主に置いてあります。また，就職などに必要な経済関係の雑誌や，各学科に関連する雑誌などが置いてあります。授業でレポートを作ったり，先生方が提示した参考文献を探したりなど，図書館には必ず足を運ぶことになると思います。そのような文献は，主に書架を回って探すことになるでしょう。しかし，資料を探すこと以外でも書架を回ることは良いことだと思います。今までとは異なるジャンルに興味が湧くこともあるかもしれません。実際わたしは，自分が必要である文献が区分されている書架にしか行かなかったのですが，最近，様々な書架に足を運ぶようになりました。わたしは授業で，福祉関係のことを中心に履修しています。しかし，美術品に関する資料や，映画に関する雑誌などがおいてあるため，見ることが良い刺激となっています。また，本の内容を気にするだけで書架を回っていたのですが，よく見ていくと日本女子大学の先生方の著書が所々にあることに気が付きました。今は，先生方の本を見つけることも一つの楽しみとなっています。

わたしは，図書館という空間が好きです。そして，図書館の中に自分の好きな階や場所があります。一人で何かを考えたいときや，勉強に集中したいときなどに，図書館は私にとって，素晴らしい空間です。

（社会福祉学科・１年次学生）

「学生が読みたい本」を実施して

本学図書館では目白・西生田あわせて，年間約1万数千冊の図書を新規受入しています。つまり毎年１万数千冊の新しい図書が，書架にお目見えしていることになります。

しかし，利用者の大学図書館への不満として真っ先に挙がるのは「新しい本がない。古い本ばかり」「欲しい資料がない」「読みたい図書がない」という声です。平成18年度図書館利用者アンケートでも多くの意見が寄せられました。

適切な蔵書構成をめざして日々努力している館員にとって，いささかがっかりする「声」ではありますが，これが利用者の本音なら耳を傾けないわけにはいきません。

そこで2007年度，図書館の新しい試みとして「学生が読みたい本」というリクエスト制度を実施いたしました。

利用者自身が「勉強のため」「研究のため」に必要とする図書なら，従来から参考デスクで随時希望を受け付けています。今回はそれとは別に，ご自身の研究に直接関係のない本でも「大学図書館にあった方が良いと思う本，読みたい本」を募集したのです。アンケートで寄せられた「気軽に読める本，話題の本」などへの要望に応えるための試みです。

募集期間は2007年10月23日（火）～11月10日（土）。目白・西生田の各館で「学生が読みたい本」受付箱を設け，図書館ホームページ，学内の電子掲示板，紙の掲示物で応募を呼びかけました。結果として目白43件，西生田16件の応募がありました。

企画時はどのようなリクエストが寄せられるだろうと期待や不安がありましたが，結果を見ると流行を追うものはむしろ少なく，自分の志す学問や関心のある事柄への真摯な姿勢が目をひきました。希望を何冊も挙げる利用者もおり，この企画への期待を感じることができたこともうれしい限りです。希望理由が細やかに書かれたものも多く，わたしたちにとっては利用者の生の声に接するまたとない機会ともなりました。

図書選定委員会で検討の結果，購入した図書は以下の通りです。目白，西生田の「学生が読みたい本」コーナーに備えましたので是非ご利用ください。

≪目白図書館で購入した図書≫

書名	著者名	出版社	請求記号
あじさい日記	渡辺淳一著	講談社	913.6-Wat
ブッダの夢	河合隼雄ほか著	朝日新聞社	180.4-Kaw
文体練習	レーモン・クノー著	朝日新聞社	954-Que
フランス怪談集	日影丈吉編	河出書房新社	953-Fur
幻想礼賛譜	J.K.ユイスマンス著	桃源社	954-Huy
ひみつの植物	藤田雅矢著	WAVE出版	470.4-Fuj
イギリスのお話はおいしい		白泉社	596-Igi
犬と私の１０の約束	川口晴著	文藝春秋	913.6-Kaw
犬はきらい？	エミリー・ヨッフェ著	早川書房	645.6-Yof
陰日向に咲く	劇団ひとり著	幻冬舎	913.6-Gek
カラマーゾフの兄弟１～５	ドストエフスキー著	光文社	983-Dos
香山滋全集	香山滋著	三一書房	913.6-Kay
建土築木１－２	内藤廣著	鹿島出版会	510.4-Nai
黒ミサ異聞	J.K.ユイスマンス著	北宋社	953-Huy
マンガ　フロイト入門		講談社	146-Fre
道をひらく　正・続	松下幸之助著	PHP研究所	159-Mat
三つの教会と三人のプリミティフ派画家	J.K.ユイスマンス著	国書刊行会	702.099-Huy
水の伝説	たつみや章著	講談社	913.6-Tat

燃えよ剣	司馬遼太郎著	文藝春秋	913.6-Shi
ナラタージュ	島本理生著	角川書店	913.6-Shi
大坪砂男全集　全２巻	大坪砂男著	薔薇十字社	913.6-Ots
ささら　さや	加納朋子著	幻冬舎	913.6-Kan
精霊の王	中沢新一著	講談社	387-Nak
世界一くわしいドールハウス大図鑑		日本ヴォーグ社	O.S.759-Eat
シッダールタ	ヘッセ著	新潮社	943-Hes
新源氏物語　上中下	田辺聖子著	新潮社	913.6-Tan
わたしを離さないで	カズオ・イシグロ著	早川書房	933-Ish
ぜんぶ手塚治虫！	手塚治虫著	朝日新聞社	726.1-Tez
Harry Potter and the prisoner of Azkaban	Rowling, J.K.	Bloomsbury	J-R88h
Harry Potter and the goblet of fire	Rowling, J.K.	Bloomsbury	J-R88h
Harry Potter and the order of the phoenix	Rowling, J.K.	Bloomsbury	J-R88h
Harry Potter and the half-blood prince	Rowling, J.K.	Bloomsbury	J-R88h
Harry Potter and the deathly hallows	Rowling, J.K.	Bloomsbury	J-R88h

≪西生田図書館で購入した図書≫

書名	著者名	出版社	請求記号
暴走老人！	藤原智美著	文藝春秋	367.7-Fuj
武士道シックスティーン	誉田哲也著	文藝春秋	913.6-Hon
エヴァンゲリオン：序		角川書店	778.77-Eva
ハチドリのひとしずく	辻信一監修	光文社	519.04-Hac
はじめての人のFX基礎知識＆儲けのルール	山岡和雅著	すばる舎	338.954-Yam
Happy　news		ﾏｶﾞｼﾞﾝﾊｳｽ	049.1-Hap
心がぽかぽかするニュース（2006，2007）		文藝春秋	049.1-Hap
「治らない」時代の医療者心得帳	春日武彦著	医学書院	490.4-Kas
波のうえの魔術師	石田衣良著	徳間書店	913.6-Ish
リバース	石田衣良著	中央公論新社	913.6-Ish
約束	石田衣良著	角川書店	913.6-Ish
東京DOLL	石田衣良著	講談社	913.6-Ish
目覚めよと彼の呼ぶ声がする	石田衣良著	文藝春秋	914.6-Ish
隠居の日向ぼっこ	杉浦日向子著	新潮社	914.6-Sug
うつくしく，やさしく，おろかなり	杉浦日向子著	筑摩書房	210.5-Sug
江戸戯作（新潮古典文学アルバム24）	神保五彌著	新潮社	913.5-Jim
お江戸風流さんぽ道	杉浦日向子著	小学館	210.5-Sug
杉浦日向子の江戸塾	杉浦日向子著	PHP研究所	210.5-Sug

今回の募集対象は図書でしたが，雑誌も何タイトルか希望が出され，図書館で雑誌購入を検討する際の参考にさせていただくことにしました。希望タイトルの一つ『ダ・ヴィンチ』は西生田図書館で継続購入となりブラウジングコーナーに備えてあります。

希望図書の中には，すでに目白・西生田両館で所蔵しているものもありました。図書館の蔵書はパソコンで検索ができますが，もしOPAC（オンライン目録）の検索方法がよくわからず，希望する図書がないと今まで思っていたとすれば，大変に残念なことです。

図書館の利用方法や各種サービスをよく知らずに，図書館には欲しい図書がなかった，どうすればよいかわからないと思っているのなら，遠慮をしないで館員にどんどん声をかけて下さい。

今回の応募結果の全体は図書館内に掲示中です。2008年度も「学生が読みたい本」の募集を行う予定ですので，ぜひまた多数の応募とご意見をお待ちしております。（図書館だより編集委員会）

3分でご案内！日本女子大学図書館［新入生向］

［目白］

［西生田］

［http://www.lib.jwu.ac.jp］

新入生のみなさん，入学おめでとうございます。日本女子大学図書館は，主に日本女子大学の学生と教職員の，学習と研究を支援するためにあります。資料も館員も設備も活用してください。

ここでは利用の流れを中心にご案内します。詳しくは館員にお尋ねください。図書館ホームページやオリエンテーションで配布した利用案内（館内でも配布しています）もご覧ください。

入館・・初回はカウンターで学生証を確認の上「日本女子大学図書館利用カード」を交付します。
↓　２回目以降はその「利用カード」を入館システムに差し込めば，入館ゲートが開きます。

検索・・ホームページの左側，**OPAC**をクリックすると，研究室も含めた本学の蔵書検索ページが出ます。検索して一覧が出ましたら，読みたい資料のタイトルをクリックすれば，配架先がどこか等，詳細を確認できます。貸出中の場合は，カウンターで予約を受け付けます。
↓

書架へ・・図書館の資料は，請求記号順に並べてあります。ホームページや館内掲示の「フロアガイド」，書架脇にある書架見出しを頼りに，直接書架へ行って手に取ることができます。
↓

（閲覧）・・館内各階にある閲覧席を，自由にご利用ください。

（複写）・・白黒コピー機（１枚１０円）とカラーコピー機（１枚５０円）があります。

（貸出）・・出入口階（＝２階）のカウンターに図書（雑誌は貸出不可）と利用カードをお持ちください。学部学生は５冊まで，それぞれ１か月間(通常期)の貸出ができます。返却期限内で，予約者がいない場合は，何度でも借り直し（＝継続）手続きをいたします。
↓

（参考質問）・貸出カウンターの近くにある参考係カウンターでは，より詳しいご案内をしています。

退館・・貸出していない資料をお持ちの場合はアラームが鳴り，退館ゲートが開かなくなります。

（返却）・・閉館時は入口横の返却ポストに返却できます。返却期限日を過ぎた延滞期間と，返却後延滞日数分の期間は，継続も貸出もできません。また，紛失や汚損は原則弁償となります。

＊日本女子大学図書館は２館あります＊

目白と西生田，両方の図書館がご利用できます／両館の間で資料の取り寄せができます／どちらの図書も，両方の館で貸出，継続，返却できます／地区の事情により開館日時が異なります

＊マナーはお守りください＊

館内での私語は他の方の迷惑になります／館内での飲食は資料の汚損，害虫の誘因となります／ページ折は紙が傷み，破れの原因となります／これまでもこれからも，みんなで使う大事な資料ですので，書き込みや汚すことなく大事に扱ってください

＊まずは館内を探検してみましょう＊

（館員・閲覧係　田代陽子）

編集後記　徳末元館長はかつて図書館だよりの巻頭言で，肉体はここに朽ちるが霊体は永久に亡びぬという成瀬先生の告別講演でのお言葉を紹介された。徳末先生の霊の宮もまた永遠に。合掌。春，出会いと別れの季節である。新入生は８頁の「３分でご案内！」を読んでいただき，まずは図書館内の探検を。卒業生，退職される専任教職員の方々はカウンターでの簡単な手続きで今後も図書館をご利用いただける。ぜひご再訪を！巻頭写真は西山館長自らの撮影，図書館へそそがれる眼差しがあたたかい。（中曽根）

日本女子大学図書館だより　No.131 2008.3.5　ホームページ http://www.lib.jwu.ac.jp/LP.html
日本女子大学図書館発行　〒112-8681 東京都文京区目白台2丁目8番1号　☎（03）5981-3195